

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272600972		
法人名	社会福祉法人 八千代美香会		
事業所名	グループホーム美乃里		
所在地	千葉県八千代市村上573-5		
自己評価作成日	平成29年2月9日	評価結果市町村受理日	平成29年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成29年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

八千代市、千葉市、船橋市、習志野市で特別養護老人ホーム、デイサービス、ショートステイ、居宅介護支援事業所と幅広く運営する社会福祉法人のグループホームです。『居心地の良い家を作ろう』を理念として、入居者の皆さまには自宅に次ぐ、「第二の家」と思ってもらえるように職員一同、日々頑張っています。通院は家族任せにして負担増大を招かないよう、基本的に職員で対応することで状態把握の一助としています。居室やリビング空間は充分な広さを確保しており、ゆったりとした気持ちで生活できます。併設しているデイサービスや地域に開放している多目的ホールなどを活用し地域との交流も進め、隣接する特別養護老人ホームとも密接に連携し、互いに行事等を企画・実施するなど、地域で最後まで楽しく穏やかに暮らせる環境を整えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームが利用者にとってみんなの家として、第二の家と思ってもらえるように手作り感のある取り組みが行われている。その人らしさを大切にし、発した言葉から気持ちの理解に努め、生活習慣や趣味が続けられる様に生活を支援している。職員は利用者のニーズや必要な事は何かを話し合い、提供するサービスが自立支援や精神安定に役立ち、過ごしやすい生活が保たれているかどうかを考えて取り組んでいる。管理者は気になる事・決められない事は皆で話し合い、職員や現場の意見を大事にし、職員からの提案にはまずはやってみようという取り組みを促している。利用者は自分の役割として出来る事を職員と一緒にやり、職員からありがたいの声に笑顔が生まれている。食事に家族の90%が参加し、利用者の理解と職員との信頼関係構築の大事な機会としている。利用者の地域との交流や外出を大事にし、行事の祭りや保育園児との交流は当たり前で前もって出来る生活の一つとして支援している。また、個別対応や外出行事を企画して全員で参加し希望を叶える取り組みが行われている。看護師は往診に立ち会い、発熱・夜間時の対応や判断に迷う時に相談・助言が行われ医療連携が良く機能している。また、医療的支援の必要時には特養との連携によりすみ分けをした対応が出来る機能がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「居心地の良い家を作ろう」を理念としています。日常のコミュニケーションの中から希望や意向を汲み取り、喫茶店へ行ったり、スーパーへの買い物など個別に応じています。	利用者にとってホームがみんなの家という理念の実践に向けて取り組んでいる。家庭的で手作り感のある第二の家とあっていただけるように、また、その人らしさを大切に生活習慣や趣味が続けられるように支援している。家庭で話し合っているようなやさしい言葉がけや寄り添って希望や意向を汲み取り、喫茶店やスーパーへの買い物、月1回の外出行事等で希望を叶えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の散歩を通して地域住民との交流は図られています。また、ホーム内にある多目的ホールを地域の自治会の会議場に利用していただいています。地域が主催する敬老会や会合へも参加して交流が図られています。	日課として散歩が行われ近所の人に挨拶をし日常的に交流している。施設合同の祭りには地域の方が多く参加し屋台やゲームを楽しみ、利用者・家族・職員と一緒に交流できる大事な機会としている。また、保育園児との交流は利用者一番の楽しみとなっている。地域の敬老会や地域の会合に参加し懐かしく会話が弾み、地域の情報収集とホームの取り組みを伝え、様々な機会を利用して交流を図っている。	ホームのホールを利用して自治会の会合に役員50名が参加している。この機会を利用して介護サポーター講座の開設や介護相談等地域への情報発信の取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に数回、職場体験学習で市内の中学生を受け入れています。また市内の保育園とも毎月、交流会が行われています。認知症の方とコミュニケーションを図っていくことで、認知症の理解にも繋がっていると感じています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員代表、地域包括支援センター職員、市の介護相談員とホーム長、管理者が参加し開催しています。日頃の取り組みを写真等も使って紹介し、意見交換を行っています。	運営推進会議は、民生委員・地域包括・市相談員・家族が参加して年6回開催されている。ホームの状況・受診・事故等取り組み状況の報告と行事の様子を写真を使って説明している。包括からは薬の服薬事故等への対応について、マニュアルに基づく取り組みだけでなく管理者が確認する等のアドバイスや人材不足について話し合いサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談員には運営推進会議やホームでの行事(敬老会やクリスマス会等)にも参加していただいています。	市の担当者とは待機者の報告時にホームの状況報告を行い、アドバイスを活かして連携して取り組んでいる。感染症や食中毒の発生時には注意メールに対応し、精神科の先生による認知症の研修等に参加している。グループホーム部会には市の担当者の参加がないため市の参加や感染症の集団指導の依頼、研修会の開催検討や情報交換を行って協力して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会が主催する内部研修を通して知識の向上を図っています。身体拘束は行なっていません。	身体拘束は虐待に繋がり、拘束はしない意味を理解してケアに取り組んでいる。毎月開催の身体拘束廃止委員会に職員が参加し、事故報告書の内容の確認や事例の検討が行われ会議録を回覧して周知している。接遇・虐待防止・事故防止等事例に基づいた内部研修会が行われて知識と意識の向上を図っている。また、ユニット会議時にもニュースの事例を基に考え話し合って理解を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修やユニット会議を通して、身体的な暴力だけが虐待ではない事を繰り返し伝えていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を活用されている方はいらっしゃいませんが、今後活用される方が出てきた際、適切な支援ができるよう知識を深めていけるよう努めていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	しっかりと時間をかけて説明して理解、納得していただけるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者からは日々のコミュニケーションの中から想いを汲み取っていき個別ケア(外出等)に繋がっています。ご家族には面会時や定期的に開催する食事会でご意見やご要望を伺っています。	家族は運営推進会議に参加しての意見や質問を行い、面会時には利用者の状況説明と要望を聞いている。10年以上継続している開設記念・敬老会・クリスマスの行事と同時開催の食事会に声掛けをして家族の90%が参加している。一緒に食事を楽しみ会話も弾み、利用者の状態を観察して理解を深め、意見や要望を聞き信頼関係構築の大事な機会としている。利用者とは日々コミュニケーションを心がけて思いを汲み取り、表情やADLの低下から原因を把握してケアプランに繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議や日々のコミュニケーションの中から意見や提案、要望を汲み取っていけるよう努めています。	毎月のユニット会議は全体的問題点や利用者の状況報告から対応を決めている。個別ケアについて職員は意見や考えを持って参加して活発な意見交換が行われ、職員からの提案にはまずはやってみようという取り組みを促している。管理者は声掛けをして日々のコミュニケーションを心がけ、気になる事・決められない事は皆で話し合い職員や現場の意見を大事にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の支援や人事考課、それに伴う給与・賞与の支払いなどで向上心を保てるよう配慮されています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	テーマ毎に内部研修が企画され、法人全体での研修会も年に一回、開催されています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム同士で交流する機会をつくり、情報交換を行っています。また、市内の事業所が集まったの会合にも参加し、情報交換をおこなっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴等の情報を全職員で共有、把握し、ご本人が安心して生活できるような関係を構築できるように役立てています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み前に必ず見学にお越しいただき、なぜ入居を検討されるのかを伺っています。質問にもお答えし、不安や悩みを出来るだけ表出頂けるよう働きかけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当サービス以外の相談があった際には、希望されるサービスの事業所紹介や保険者への取次ぎなど、相談対応も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす時間が家族より長いことから、共に暮らす家族に近い関係を目指しています。家事や日々の業務も助け合いながら行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会にいらっしゃた際に、一緒にレクリエーションに参加されたり、外出行事に同行されるご家族もいらっしゃいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に参加されていた地域での集まりに、入居後も継続して参加されている方もいらっしゃいます。	地域で開催される敬老会に参加して馴染みの人との会話が弾み、昔からの友人が迎えに来て一緒に遊びに行き交流している。家族の面会が多くあり花を持って来て飾り、一緒にレクリエーションに参加し、昔の写真を観ながら昔話に話が弾み関係継続を支援している。入所時のアセスメントから趣味の書道や読書を継続できる様に支援し、個別外出を行って馴染みの農園にイチゴや梨を買いに行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の関係性が充実したものになるよう、場合によっては職員が間に入って円滑にコミュニケーションが図れるように日々支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接する特別養護老人ホームに移動された方にはお会いする機会もありますので、その時はお声掛けはしています。ご家族については特にお会いする機会がないのが現状です。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り本人の要望を取り入れた生活を提供し、個々の思いや意向も職員一同、傾聴するよう努めています。	利用者の要望を出来る限り取り入れた生活が出来る様に思いや意向の把握に努めている。職員は居室での1:1の時に相談事や体の具合についてゆっくりと話を聞いている。また、介護度が高く意思疎通が難しい人にも感情があり表情を見て気持ちの把握に努めている。利用者の1日の様子や発した言葉をそのまま業務日誌に記録し、申し送りをしてユニット会議で対応策を話し合い統一したケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴をお聞きして、ホームでの暮らしの中で快適な日々を送っていただけるように意識しながら援助しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りや毎月のユニット会議、毎日の生活記録と月のまとめ記録をとることで、状況の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝の申し送りや毎月のユニット会議を通して意見・情報交換を行い、日々変化する入居者の状態に柔軟に対応できる体制を整えております。家族には電話や面会時に意見を伺いサービスに反映させています。	家族の意見や要望、ADLの低下に伴う失禁や問題行動等の課題、利用者のニーズや必要な事は何かの職員の意見をユニット会議で話し合っている。職員の提供するサービスが利用者にとって自立支援や精神安定に役立ち、過ごしやすい生活が保たれているかどうかを考えたケアプランを作成している。モニタリングを行い職員や家族の意見を聞いて見直しの検討が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌やケース記録、月のまとめ記録をとることで、状況の把握に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスはもちろん、隣接する特養やデイサービス・居宅支援・ショートステイなどと連絡を取り合い、さまざまな観点から支援できていると思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われている行事等に参加し、交流を持てるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には近隣にある協力病院がかかりつけ医となり、他の医療機関受診も自由です。周辺に多様な病院があるため、かかりつけ病院にこだわらず、ある程度の希望に応じた医療が受けられるよう支援しています。	入所前のかかりつけ医への受診は家族が同行し、食事量等の情報を口頭やメモ書きで伝え、薬の変更等の情報を共有している。協力病院の毎週の往診は看護師が立ち会い、体調不良の利用者を診察し、回診受診ノートで情報共有している。便秘が続いたときは下剤を試み結果を見て医師に処方依頼している。また、発熱時には看護師に相談し職員が同行して受診し家族に受診前後に報告している。看護師との医療連携が良く機能している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する特別養護老人ホームの看護師が入居者の健康管理の支援を行っています。何かあればすぐ相談できる良好な関係が保たれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携会議が定期的に行われています。外来や病棟の医師や看護師、医療相談員など、関係部署の方々が参加されています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的な支援が必要となってきた場合は今後の方針について特養への移動を含め家族と話し合いをする機会を作っています。特養が隣接していることから、重度になった場合は特養へ移動するケースが多くあります。住み分けできることも特徴のひとつです。	契約時には重度化・終末期方針や看取りについて説明し、変化時には再度相談をしている。利用者の状態を看護師が確認し、医療的支援が必要となった時には管理者・リーダーと話し合い、特養への移動を含めて家族に説明し今後の方針を話し合っている。急変時の対応についてマニュアルに基づいて研修が行われ、判断に迷う時には看護師・管理者に連絡し指示により対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には看護師、管理者またはユニットリーダーへ連絡し指示を仰ぐこととなっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の避難訓練を行い、隣接する特養と連携した防災活動の訓練を行っています。3日分の食料・水の備蓄があります。	隣接する法人の施設と合同で年3回避難訓練が実施されている。夜間を想定した避難訓練は火災発生・通報・初期消火・避難誘導と人数確認・けが人の確認等が行われている。また、緊急連絡網による伝達連絡と移動時間の確認が行われている。市から地震発生時の避難場所として協力要請があり開放を了承している。IH使用して火元に注意し、3日分の備蓄をして備えが出来ている。	消防署の立ち合いが無い事と職員全員が訓練に参加出来ない事を課題としている。また、通報訓練や消火器を使用している実践的な訓練の実施にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を損ねないよう、言葉使いや接遇には十分に配慮しています。	人生の先輩として尊厳を損ねない言葉遣いや接遇に十分に配慮して支援が行われている。特に新人にはオリエンテーション時に理解を深め、現場ではリーダーが指導している。ちゃんづけ言葉やスピーチロック、利用者に慣れると距離が近くなり口調や態度に出る事があるので、気づいたときにはその場で注意している。フロアでのユニット会議は名前が聞こえるために居室番号で話し合い、居室への入室は声掛けやノックをしてプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間は何を飲みたいか。時間をかけてでもなるべく、ご自分で決めていただくよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課である散歩の時間以外でも、「外へ出たい」という方がいらしゃった場合は、個別にお連れしています。なるべくご本人の希望にそえるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度、訪問美容室を利用し、カットやパーマ、カラーを楽しんでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの芽取りなど簡単な作業は手伝っていただいています。また、後片付けは出来る方には一緒に手伝っていただいています。	利用者はもやしの芽とりや下膳等を自分の役割として出来る事を職員と一緒にいき、職員からのありがとうの声をかけに笑顔が出ている。栄養士のバランスの取れたメニューと利用者に合わせて食事量等調整して提供されている。おやつの中にはホットケーキやお好み焼きと一緒に作って食べて楽しみな行事となっている。例えば食事会では蟹料理の店での食事がそのまま食べれない人のために、蟹のミキサー食を用意して持参し皆と一緒に楽しめる工夫が行われ家族も喜んでる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が考えておりバランスの取れたメニューになっています。糖尿病や肥満傾向の方については食事量を調節し援助しています。水分は提供機会を多めに設定しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ADLが低下している入居者でも立位が保てるうちはなるべくトイレ誘導を行い、維持できるよう努めています。	ADLが低下してもトイレに誘導し座って自立排泄を支援している。排泄チェック表に記録し、排泄パターンに応じてそれぞれに人に応じた声掛けをしている。動作やしぐさからトイレに誘導し、拒否する人には時間や言い方を変えて対応している。頻尿で夜間眠れない人には受診して薬の調整をし睡眠がとれるようになり、日中も起きている効果が出ている。本人に合わせた投薬で排便のコントロールが出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	意識的に多めに水分を摂っていただくよう努めています。それでも便秘傾向のある方については主治医に相談し、内服療法で対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	季節により、ゆず湯や菖蒲湯、また、入浴剤にも変化をつけてお風呂を楽しんでいただけるよう支援しています。	利用者の状態や意向に配慮して週3回の入浴が行われている。入浴を拒否する人には無理強いをせず次の日に声かけをして誘い、希望により同性介助も行っている。お湯は掛け流しで、柚子・菖蒲・入浴剤を入れて季節感や肌の効果に配慮し、1対1の時間は歌や昔話に盛り上がっている。段差や滑らない様に足元には注意を払い、着脱時は皮膚を観察し異常があれば看護師に相談して受診が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居時に自宅での睡眠リズムを確認しています。眠りが浅い方を対象にオルゴールを試みてみたりもした。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬マニュアルに沿って支援をおこなっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや洗濯物たたみ、食器洗い、草花の水やり等、役割を持っていただいております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の対応で近所のスーパーへの買い物、喫茶店へコーヒーを飲みに行ったりと、なるべく本人の希望を叶えられるよう支援しています。	ホーム内での閉じこもりの生活は精神面からも良くない事から、外出の機会を大事にして取り組んでいる。日課として散歩に出かけて近所の人との挨拶や交流が行われ、花を観て季節を感じ、当たり前前の事が当たり前になる生活を支援している。個別対応で喫茶店やスーパーへの買い物に行き、外出行事を企画して利用者全員でばら公園等の見学や食事をし希望を叶える取り組みが行われている。また、家族が協力して受診や一緒に外出・外食・外泊も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については基本的に自由です。持っているお金でスーパーへ買い物に行ったり、喫茶店へお茶を飲みに行かれています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ連絡を取りたいとの申し出があった場合にはフロアに備え付けてある共用の電話を自由に使っていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内は落ち着いた茶色をベースとした配色で、テーブルや玄関には庭に咲いている草花やご家族が持って来てくださった花を飾り、ご入居者にも屋内に居ながら季節を感じていただけるような空間作りを意識しています。	玄関脇にはチューリップや菊の花を植え、テーブルには季節の花を飾り、季節毎に飾り物を一緒に作成して季節が感じられる空間づくりがなされている。リビングでは体操や口腔体操、テーブルを2個合わせ周りを利用者が困んで卓球で盛り上がり、いろいろなレクリエーション活動が行われて元気な声が聞こえている。インフルエンザ・感染防止の表示のある健康管理温湿度計を湿度調整に活用し、フロアに濡れたパジャマ類を干して乾燥防止に工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で一人になりたいという時は、皆さん自室に戻られることが多いようです。面会や気の合った仲間と過ごせるスペースは準備しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に、火気の発生を伴う物品以外は持ち込みは自由となっています。テレビ、冷蔵庫、御仏壇、携帯電話なども持ち込まれています。	馴染みの洋服箆笥や整理箆笥、仏壇を持ち込んで居心地よく過ごせる居室づくりとなっている。また、家族の写真・習字等の制作物・ぬいぐるみ・時計等の好みも設えて自分の家づくりが行われている。大きな鏡付きの洗面台を設置してうがいや手洗いの利便性や清潔面の配慮がある。タンスに掴まって歩けるように導線に配慮し、衣類は家族や職員が整理し、毎日清掃をして清潔感のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレを解り易くするための表示や、居室札の個別化などで工夫しています。		